

📖 シリーズ「きょうだいの思い」⑭

学生時代①

高校を卒業後、福祉を学ぶために進学したが、クラスメイトは老人福祉の仕事を目指す人が大半だった。

学校では、2年間の中で何度か現場実習があったが、その中でも、2週間の泊まり込みの施設実習が、私の心の根っこを揺るがした。

知的障害者の更正施設での実習だったが、入所者のほとんどが、当時19才だった私の親と変わらない年齢の人や、それ以上に高齢の方もいた。

入所者の方々は、施設内のことを色々と教えてくれたり、言葉はなくても熱い視線で見つめられたり(笑)、一緒に入浴した時には「背中あらって」と複数の人が順番に並んだくらいである(笑)

外部の人間である私の存在が、とても新鮮なのだろうと思うと同時に、入所者の方々の『変化のない毎日』の表れのように感じた。

2週間の実習の間、一度だけ週末帰宅ができるようになっていて、私は自宅に戻った。

自宅へ帰れば、当然ながら家には『自閉症の弟』がいて、そしてまた実習先へ行かなければならない。

帰宅中、私の心はモヤモヤしていて、どうもスッキリしなかった。

当時の私の心境を、現在の私が代弁すると「どこで線引きをしとらいいのか。ONとOFFの切り替えはどうしたらいいのか？」と言える。

帰宅をして、1週間分の衣類がグルグル回る洗濯機を見つめながら「しんどい」と感じた自分の心を、今でも覚えている。

つづく

まえほほ通信

発行日

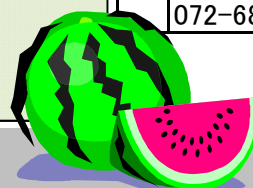
2012年8月1日

発行元

自立センター前穂
〒569-1022
高槻市日吉台
1番町21-18
072-689-8600



ご挨拶



私は現在、前穂のゲストであると共に、準スタッフとして前穂の業務に携わっている清水庄造(44)です。

この度、前穂と協力して来春にホームの開設を目指すNPO法人「いぶき」を設立する事に致しました。「いぶき」は安心して生活できるホーム創りに邁進致します。

ついては、主旨にご賛同頂きNPO法人「いぶき」の会員になって頂ける方を募っております。宜しくお願い致します。 ※お問い合わせは、前穂(担当・松原)まで。



突然の来訪者

熱中症が心配されるような暑い最中のつい先日の事です。

前穂に一人の少年が突然に、しかもお独りでやって来られました。実は前回のご利用が2年前の夏だった小学生でした。その突然の来訪時には、彼を直接に知る職員は在園しておりませんでした。彼がご自分の名前を告げてくれた事から、ファイル検索で、氏名と連絡先が判明し、ご自宅に連絡がとれました。なんと、3時間前にご自宅から行方不明になり、ご家族が必死の捜索を続けておられ、警察に捜索願ひまで出されていた事が判りました。お父様が迎えに来られて、少年は帰って行かれました。

ご自宅と前穂との距離は約2.5Km。かつて、幼い時に車の中からはか道中を知らなかった少年が、何を想って、炎天下の中、前穂を目指したのかは不明ですが、その時のご家族のお心を想うと、無事であってくれた事が、天恵のように思えて仕方ありませんでした。

こうした突然の来訪者は今迄も時々おられました。そうした方々になんとか応える事ができた時は、この場所を守り続ける事の誇りを感じられる時でもあります。